

ロウバイ *Chimonanthus praecox* (ロウバイ科) の2裂性奇形葉について

Katuhiro KITAI, Yoshiro KASHIYAMA, Shin KUBOTA and Shinya UMEMOTO: An aberrant bilobed leaf of *Chimonanthus praecox* (CALYCANTHACEAE)

北井勝博*・樫山嘉郎**・久保田 信***・梅本信也****

ロウバイ (蠟梅) *Chimonanthus praecox* (L.) LINKは17世紀頃に中国から日本に導入された落葉樹で、真冬に花を咲かせる数少ない花木の一種である。欧州へは日本から紹介され、世界各地に広がった。本種の独特の芳香を放つ花卉とがくは分厚く、蠟のような質感があるのが特徴である。

今回、2008年12月26日に、白浜町堅田の北井の自宅に植わっている高さ約2mほどのロウ

バイの1本の木からの落葉の中に、葉端から3分の1まで滑らかに切れ込んだ2裂性葉 (図1) が1枚発見されたので希少例として報告する。本例は、おそらくは奇形の一種で、枝先端の芽の原基が分化し、2枚の対生葉がそれに続こうとする頃に、何らかの異常が発生し、不完全状態のまま分化が停止し、そのまま癒着・生長して展開した可能性が高い。本標本は著者の樫山が保管している。



図1 ロウバイ *Chimonanthus praecox* の2裂性奇形葉.

Fig. 1. An aberrant bilobed leaf of *Chimonanthus praecox*.

* 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田1369

** 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田1143

*** 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
(〒649-2211和歌山県西牟婁郡白浜町459)

**** 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所
(〒649-3632和歌山県西牟婁郡串本町須江)